〈本年度研究推進の全体反省〉

本年度研究推進の全体反省として，各部会，推進委員会等で出された意見を要約すると

ア．研究組織について

○　組織上特に問題はない。

○　要望として，推進委員会に現在の教科１名を２名とし，主任，副主任としてはどうか，ということである。

イ．研究のすすめ方について

○　全体授業研究は，各段階の先導的役割という点を考慮すれば，各段階の初めに行ってはどうだろうか。

○　研究内容を３段階に区切って，それぞれに検証仮説をたてて研究をすすめてきたが，三つの検証仮説を一つずつ検証するのでなく，同時に三つの検証を継続して研究し，まとめるようにしてはどうだろうか。

○　研究をすすめるのに過密にならないよう，時間的余裕がほしい。

(4)　第２次調査のまとめ

本年度の研究推進は，以前に比べ数多くの点で改善が加えられ，共同研究としての成果があったことと思われる。

特に成果のあった点として考えられることは，

ア．研究推進委員会が，常に研究の方向づけをしてきた。

イ．研修を充実したものとして，研修日の確保を教育課程に位置づけた。

ウ．その他，研修効果を上げるのに欠かせない要因として

○　主任の教育観，指導力，人がら等が大きく左右する。

○　最も重要なことは，校内における人間関係ではなかろうか。これを無視して研修の効果は，期待できないであろう。

○　すべての会合の運営について言えることだが，やはり〝司会者〟の存在を無視することはできない。司会者は，研究内容について十分知っていて，更に造けいの深さ，話術の巧みさ等が要求されそうだ。

○　共同研究における共通理解，意欲の高まりは，参加個人個人の意見の総和で高まっていくものと思われる。

5．今後の問題点

今回の調査及び考察については，十分吟味されたものでなく，追究の甘さ，整理上の問題点等，不備な面が多く，主題に添ったまとめができなかった。

ただ，継続研究としての校内研修のすすめ方における，内蔵されているいくつかの問題点が出され，内容が副次的要素を含んでいて，なかなか核心にふれることができなかったものの，問題点となるものを知ることができたのは，何よりの収穫であった。

今後の課題として，次の点について更に研究を深めていきたい。

(1)　研究体制として組織の再検討

隣接学年との交流を考え，ブロック研究を取り入れたい。

(2)　新教育課程実施に伴い，研究内容の再検討

(3)　継続研究をすすめるのに耐えられる仮説及び検証方法の研究

最後に，校内における職員の融和，明るい職員室づくり，温かい人間関係に支えられた校内研修をすすめ，子どもに自己評価を求めると同様に，教師自身も自己評価をし，なお一層の研さんに努め，校内研究の灯を絶やすことなく，継続されるように努めたい。

6．参考文献

○研修のすすめ方……県教育庁義務教育課編

○現場のための教育研究法……新光閣書店

○教育研究のための調査票の設計と事例……ぎょうせい

○学校経営に関する研究（S．53）……県教育センター

○教育研究の実践……県教育センター